

図1: 研究の流れ

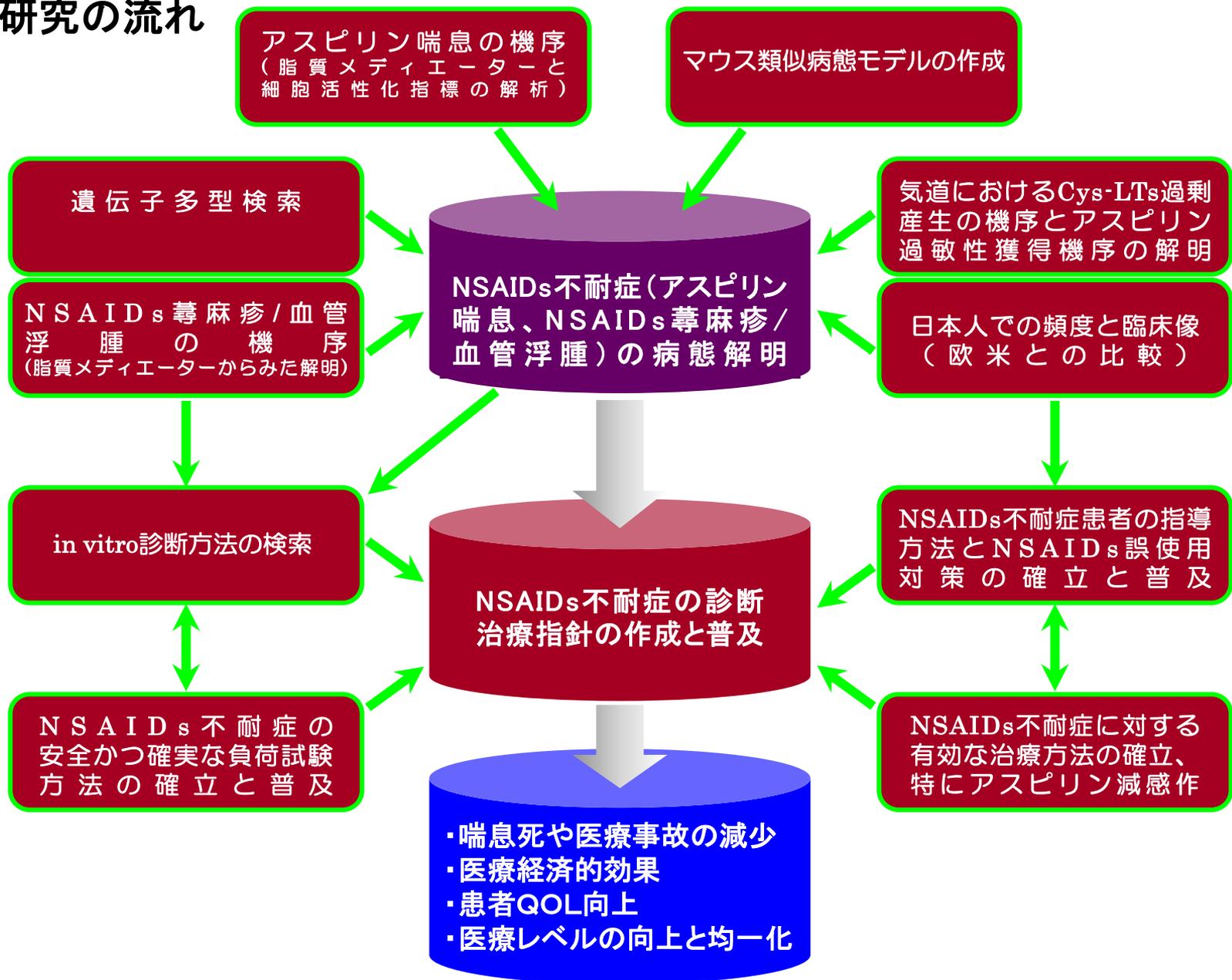


図2:アスピリン喘息では、安定期は鼻茸好酸球からのCysLTs過剰産生により重症化する、またNSAIDs負荷時はマスト細胞が活性化しCysLTs産生する

NSAIDs使用時

⇒マスト細胞が主役

安定期(鼻茸>気管支)

⇒好酸球が主役

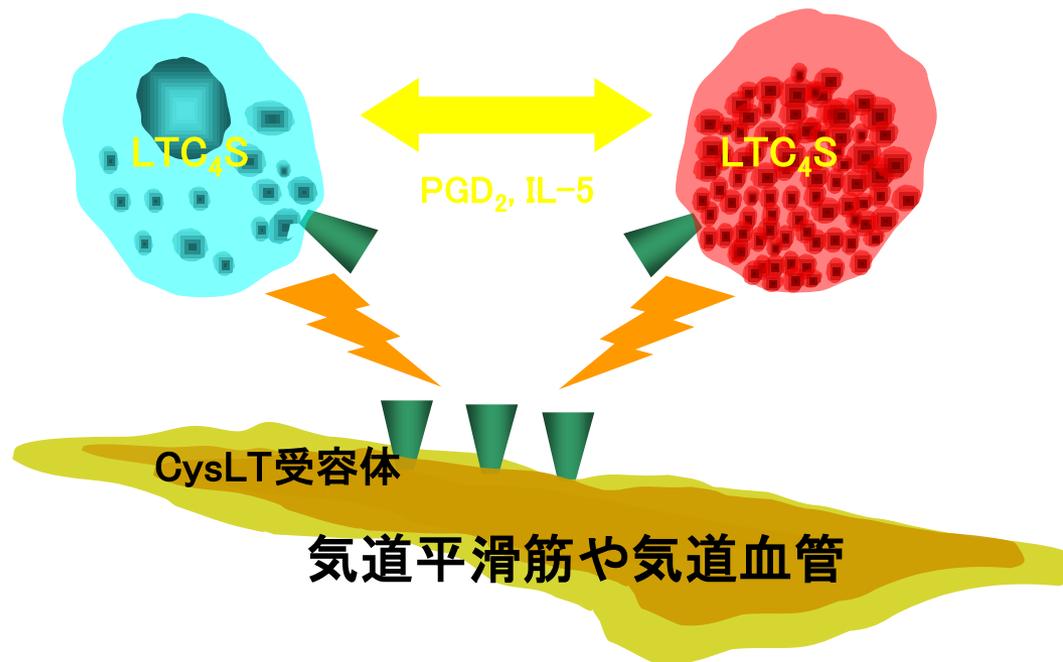


図3: アスピリン喘息 (AIA) では、非アスピリン喘息に比べ、抗炎症性メディエーターであるリポキシン新規代謝産物 (15-epi-LXA<sub>4</sub>) 産生が著明に低下していた (Yamaguchi Higashi Taniguchi et al. 2011 英国アレルギー免疫学会誌)

